

青春18!?きっぷの旅 ー日本編 ②

ナショナルトラスト運動発祥地「天神崎」へ

事務局 古谷 壽宏

南紀方面は車を利用した白浜温泉一泊旅行がこれまで定番でした。青春切符で日帰りできるコースはないかと時刻表を眺めていたところ、早朝に新大阪発乗り換えなしで紀伊田辺行きの普通列車を見つけました。紀伊田辺以降は次の列車が1時間以上の待ちなので串本までは断念して熊野路の出発点でもある田辺市を目指すことにしました。

弁慶生誕の地!?

夏のある日、新大阪午前6時27分発に乗車。天候はよし。紀伊田辺駅まで車窓風景を楽しむだけです。海南地区までは見慣れた景色でしたが、御坊を過ぎてから電力風車と並行する国道42号線が見え隠れし、海岸風景が続いています。車内は空いたまま午前9時39分に紀伊田辺駅着*。さっそく駅の案内所へ行き、田辺市内のパンフレットを手に入れました。青春切符を利用した旅行では滞在時間を多く、原則として街中は歩くこと。行き先は約4km先の天神崎へ行くことにしました。駅前には武蔵坊弁慶の像があり、弁慶がこの地で出生したことを知りましたが、これは京田辺市も主張しています。*京都のJR田辺駅は京田辺駅に名称変更

和歌山の天才奇人!? 南方熊楠

駅前是比较的静かで、商店街の裏はすぐに住宅地が続き、その中に約1334㎡(400坪)の広大な敷地に南方熊楠顕彰館と近代建築の南方熊楠邸がありました。入館料は大人300円。和歌山の奇人(優れた才覚のある人の意)の一人で、民俗学や博物学に多大な功績を残した南方熊楠は和歌山で生まれ、1916年にこの地に移り半生を過ごしました。案内人がおられて彼の生活ぶりを教えられました。庭には楠、柿、みかんも植えられていました。

天神崎!

南方邸を後に徒歩で向かったのは、錦水城。現在は水門跡と小さな公園のみで、城の面影はなにもありませんでした。海岸沿いの橋を渡り田辺漁港へと続きますが、昼前であったためか漁港は閑散。暑い夏場なので日陰で休憩し、再び天神崎へと歩き始めました。道路は途中で広い2車線から1車線の小道に変わり、目的地が近づいてきているのがわかります。山沿いを歩いていると突然海岸が見え、しばらく歩くと「田辺南部海岸県立自然公園」

と明記された看板のある天神崎の地に出ました(写真1)。

道から海を眺めると真下には岩礁が続いています。幸運にもちょうど干潮だったため、すぐさま道から岩礁地帯に降り立ち、遠くに見える丸山を目指しました。丸山は旧灯台のある島で、黄昏や夕焼けの美しさは雑誌にも掲載され、満潮時は渡れなくなる場所です。私も海岸に立ってしばらく写真撮影。それほど奇岩に満ちた風景でもないように感じました(写真2)。



【写真1】「田辺南部海岸県立自然公園」の看板。はるか太平洋を見渡せる。



【写真2】前方に見えるのが「丸山」。干潮で渡ることができた!

日本でのナショナルトラスト運動のさきがけ

天神崎を有名にしたのは、生息する生物等自然環境ではなく、1974年に海岸側の日和山にマンションが建築されることにより、市民有志が自然環境破壊につながると立ち上がった運動です。行政側が土地の買収を提案し、10年ほどかけて住民、行政、業者がお互い歩み寄り、住民側がその土地を買い取り自然環境保存を実現しました。ナショナルトラスト運動の自然環境保全法人第一号に認定されています。天神崎から少し離れたところにある「かんぼの宿紀伊田辺」で遅めの食事をし、再び駅まで歩きながら(全行程約12km)町並みの写真を撮り駅前商店街に戻り、地元では著名な和菓子店「鈴屋」で頼まれていた「デラックスケーキ」(写真3)を土産に買いました。

田辺市は人口8万人弱、熊野水軍の本拠地であり、和歌山県第二の都市ですが、年々人口は減ってきているようです。海岸線から見れば間口が狭く奥行きが広い田辺は海水浴場以外に特に観光産業はなく、目的がなければ通過される都市のように感じました。隣は南高梅の南部町と、白浜温泉の白浜町です。

7時間の滞りで、自然環境保全への取り組みと自然との共存の大切さを教えられました。帰りの列車は御坊、和歌山、天王寺、大阪と4回乗り換えが必要でした。



【写真3】デラックスケーキ。特殊なカステラにジャムを挟み全体をホワイトチョコレートでコーティング

行程

往路 JR吹田駅 → 新大阪 → 紀伊田辺 乗換え2回

復路 JR紀伊田辺 → 御坊 → 和歌山 → 天王寺 → 大阪 → 吹田 乗換え3回/乗車距離160km

滞在時間 約7時間 費用 2,300円(乗車券)